

～お薬管理をスマートフォンで～

見えない・見えにくい人のための

しゃべる電子お薬手帳体験セミナー

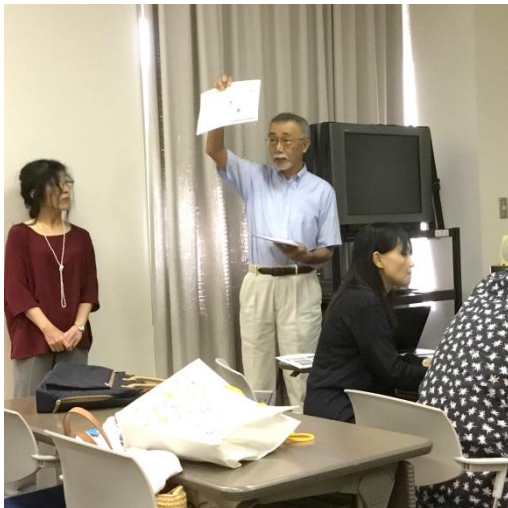
開催日:平成29年7月29日(土) 場所:男女共同参画センター(ムーブ)

昨年に引き続き「ムーブフェスタ2017」に於いて【しゃべる電子お薬手帳体験セミナー】を開催した。

今年は視覚障害者と云う捉え方からもっと視野を広げ「見えない、見えにくい人」にとってのお薬管理とし、高齢者にも使いやすいスマホアプリの体験セミナーとした。このフォーラムを開催することにより、広く北九州市の「見えない、見えにくい人」のための医療情報保障に関する現状を伝え、取り組みの必要性についての認識を高める機会とした。

セミナーの前半は臨床眼科医、薬剤師、そして障害当事者の方々にお話し頂き、見えにくい生活状況も体験して頂くことで、我々の開発している音声応答スマホ電子お薬手帳の活用場面をご理解頂いた。

また後半は「だれでも、いつでも、どこでも」をコンセプトに電子お薬手帳を活用した「見えない、見えにくい方達」と共に作る、「音で伝える医療情報」の確立を目指し、実際にスマートフォン体験に依りその活用の有効性を認識して頂いた。



今回は障がい者、支援者、医療関係者などの参加を得ての開催となった。

この開催を契機に多くの共感者、賛同者を得ることが出来、北九州市における障がい者にとっての安心・安全な社会参加を目指した情報保障の整備の大きな動きに弾みが付いた。

また薬剤師の役員方々の参加を得たことは、今後の開発促進にも弾みがつき大きな力を得ることが出来た。



参加者からはスマートフォン音声による薬剤情報提供の意義と有効性を認識して頂き、参加者のアンケートの中にもその開発促進を望む声も複数見られた。今後、当日参加者の要望やご意見を取り入れ反映し、開発を進める。

現在、北九州市立大学特任教授、産業医科大学特任教授、国立北九州高専生産デザイン工学科情報システム准教授、小倉薬剤師会薬剤師方々の協力者を得ており、今後さらに賛同協力者を増やしながらか開発を進める意向である。



薬剤師会と臨床眼科医の先生による視覚障害に関してや、電子お薬手帳の活用について丁寧な説明をして頂いた。



【プロジェクトの運用概念図】

地域包括ケアに於ける医療情報バリアフリー・フリーアクセス

【見えない・見えにくい】に対する医療情報保障運用概念

